

R元年度 県立学校における働き方改革に関する意識調査結果(概要)

県教育委員会では、令和元年度から、愛媛大学と連携し働き方改革に関する意識調査を行っています。この度、令和元年11月に実施した調査結果を取りまとめましたので、お知らせします。

教職員が学校現場で生き生きと働くことができるよう、また、多くの魅力的な教職員に囲まれた子どもたちが伸びやかに学ぶことができるよう、学校における働き方改革の取組を進めてまいりますので、保護者や地域等、関係の皆様のご理解と御協力をお願いします。

調査目的

本県の学校における働き方改革が、「勤務時間の削減」のみにとらわれることなく、教職員の「心身の健康」「学びの充実」「プロフェッショナルとしての誇りややりがい」につながるよう取り組まれているか確認しながら、今後の取組を進めていくため

調査時期

令和元年11月(学校における働き方改革推進月間(毎年11月))に合わせて、令和3年度まで実施)

調査対象

愛媛県の県立学校の全教職員 計4,362人※

※ グループウェアに登録されている全ての教職員(非常勤職員含む)が対象

回答方法

グループウェアを活用したWebアンケートによる回答

調査内容

質問項目数は、全11項目(32問)

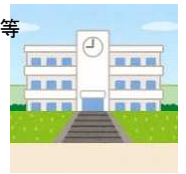
- ・先月(10月)の1カ月の時間外勤務時間
- ・やりがい(ワーク・エンゲイジメント)に関する項目
- ・心身の健康(メンタルヘルス)に関する項目
- ・主観的幸福感(ワーク・ライフ・バランス)に関する項目
- ・職能開発(学び)への参加状況
- ・働き方改革に関する取組事例(自由記述) 等

分析・検証

愛媛大学教職大学院と連携して実施

調査結果

回答者数:3,649名 回答率:83.7%



調査項目	調査項目の説明		今回調査の平均点	日本や他国の状況						
やりがい、誇り(ワーク・エンゲイジメント)	仕事に積極的に向かい活力を得ている状態を評価するために開発された「ユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度(UWES)」の日本語9項目短縮版(島津)を活用		28.83点	【日本(民間企業)の平均】約20点						
心身の健康(メンタルヘルス)	心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として、広く利用されている「K6」を活用		5.36点	5点以上がリスク群 9点以上がハイリスク群						
主観的幸福感(ワーク・ライフ・バランス)	OECDの幸福度調査においても使用されており、最高に幸福な状態を10、最高に不幸な状態を0として、直近の1カ月の状況を11段階尺度で測定する「一般的幸福尺度」を活用		6.06点	【日本の平均】6点 【OECD加盟国の平均】6.5点						
職能開発(学び)への参加状況(職能成長機会)	対面式の講座やセミナー	オンライン上の講座やセミナー	教員や研究者による研究発表、教育問題に関する議論をする会議	公式な資格取得プログラム	他校の見学	学校の公式な取組である同僚の観察・助言又は自己観察、コーチング活動	教員の職能開発を目的とする研究グループへの参加	専門的な文書や書物を読むこと	その他	
	愛媛県の県立学校(教職員)	42.2%	9.9%	55.7%	18.2%	52.7%	73.1%	37.4%	77.5%	1.5%
OECD国際教員指導環境調査(TALIS)2018「過去12カ月の職能開発への参加状況」と比較	日本の中学校(教員)	37.3%	9.4%	60.6%	6.2%	65.1%	55.2%	30.6%	67.5%	18.4%
	日本の小学校(教員)	45.5%	8.1%	66.7%	7.5%	78.9%	61.3%	37.5%	77.3%	19.3%
	TALIS参加48か国平均	76.1%	37.9%	50.5%	17.9%	29.5%	49.3%	43.8%	71.4%	35.7%
働き方改革に関する取組事例(自由記述)	1,170人から、事例(1,095件)、要望(227件)感想・その他(136件)が寄せられた。		自由記述回答	事例	要望	感想、その他				
	人数	1,170	870	169	131					
件数		1,095	227	136						



調査結果から読み取れること

by 愛媛大学教職大学院 露口教授

- ▶ 「長時間労働は抑うつリスクを高め、幸福感を蝕む」
→ 「ベストコンディションで仕事に臨むことができる環境整備」が必要
- ▶ ワーク・エンゲイジメント得点は、日本の平均の1.4倍の水準であり、「教員はやりがいのある仕事」 → 「教職の魅力を高める」ことが必要